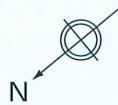


# 国指定史跡 原城跡 案内図



有馬氏時代には、重臣等の屋敷や役所などがあったとされている。島原の乱の時には大江源衛門以下3,500人が守備した。

原城の中でも最も広大な地域をしめ有馬氏時代には、殿の御屋形があつたといわれる。島原の乱の時には有馬口之津・加津佐・三会村の住民ら5,700人が守備した。

有馬時代には、天守閣があつたとされるところである。島原の乱の時には有馬口之津・加津佐・三会村の住民ら2,000人の守備軍と遊軍2,000人がいた。

「本丸」と「鳩山出丸」の間に位置するこの平地は、有馬氏時代の乗馬の練習場であったといわれる。島原の乱当時は、人員の点呼がなされたと云われている場所で、築城当時の石垣が今も残る。

原城の表玄関であり、島原の乱の時は布津・堂崎村など3,500人が三ノ丸とともに守備したところである。乱後この入り口には多くの一揆軍の首がさらされていたといわれている。

寛永15年2月27日幕府軍の総攻撃のきっかけとなった所。佐賀鍋島勢が抜駆け、予定より1日早い総攻撃となり翌28日原城(一揆軍)は、陥落となった。

島原の乱当時は、千々石から口之津の住民1,400人で守備したところで、寛永15年2月21日、ここから一揆軍が黒田・寺沢の両陣に夜襲を決行した。

島原の乱当時は、天草各村勢2,000人が守備していたので、天草丸と名づけられた。



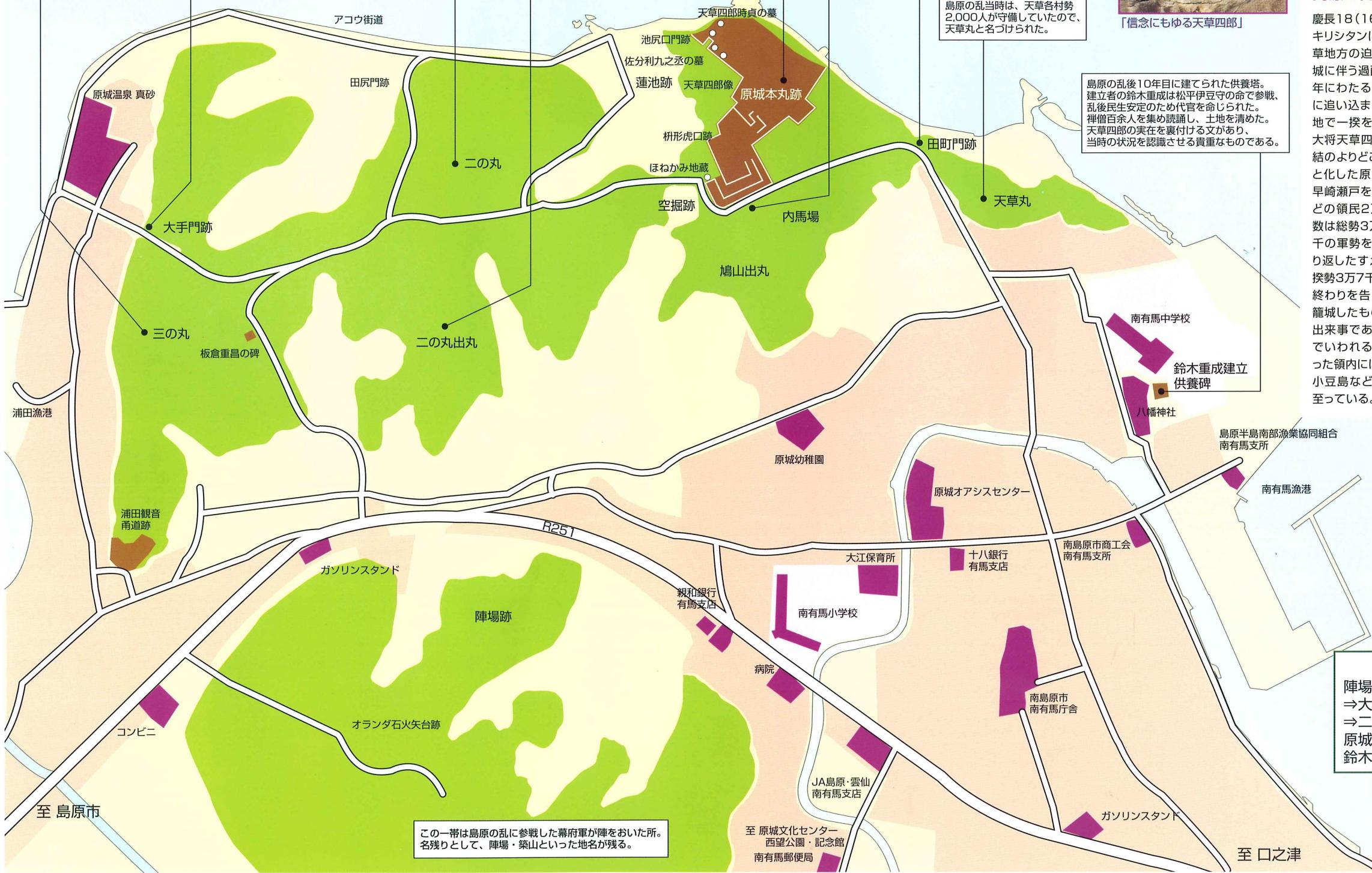
原城本丸跡

## 島原の乱 1637-1638

慶長18(1613)年、幕府のキリスト教禁教令により、キリスト教に対する弾圧は熾烈を極め、島原半島・天草地方の迫害は甚絶なもので、これに加え島原城築城に伴う過酷な労役・重税を領民に課した。また、数年にわたる天災による凶作も重なり、窮乏のどん底に追い込まれ耐えかねた天草・島原の農民たちが各地で一揆を起こした。寛永14(1637)年12月総大将天草四郎時貞のもとに、キリスト教の信仰を団結のよりどころにした天草・島原の農民が合流、廃城と化した原の古城に立て籠もった。天草側からは、早崎瀬戸を渡り1万4千余人が、島原側では、ほとんどの領民2万3千余人と原の古城に合流し、一揆の数は総勢3万7千余人ともいわれた。幕府軍12万5千の軍勢を相手に、一揆勢は約3ヶ月の攻防戦を繰り返したすえ、翌寛永15(1638)年2月28日、一揆勢3万7千余人・幕府側1万数千人の死傷者を出し、終わりを告げた。島原の乱は、老幼男女の関係なく籠城したものは皆殺しという日本史上で最も悲惨な出来事であり、この後鎖国体制の確立に至ったとまでいわれる大乱であった。その後、領民がいなくなった領内には、強制移民令が出され各地(豊後・薩摩・小豆島など)から多くの移民がおこなわれ、現在に至っている。



長崎の教会群とキリスト教関連遺産を世界遺産へ



この一帯は島原の乱に参戦した幕府軍が陣をおいた所。名残りとして、陣場・築山といった地名が残る。

**【名所めぐり】**  
陣場跡⇒浦田観音(甬道跡)  
⇒大手門跡⇒板倉重昌の碑(三の丸)  
⇒二の丸⇒ほねかみ地蔵⇒  
原城本丸跡⇒田町門跡⇒  
鈴木重成建立供養碑

■施設 ■名所・旧跡  
■住宅街・商店街

南島原市